

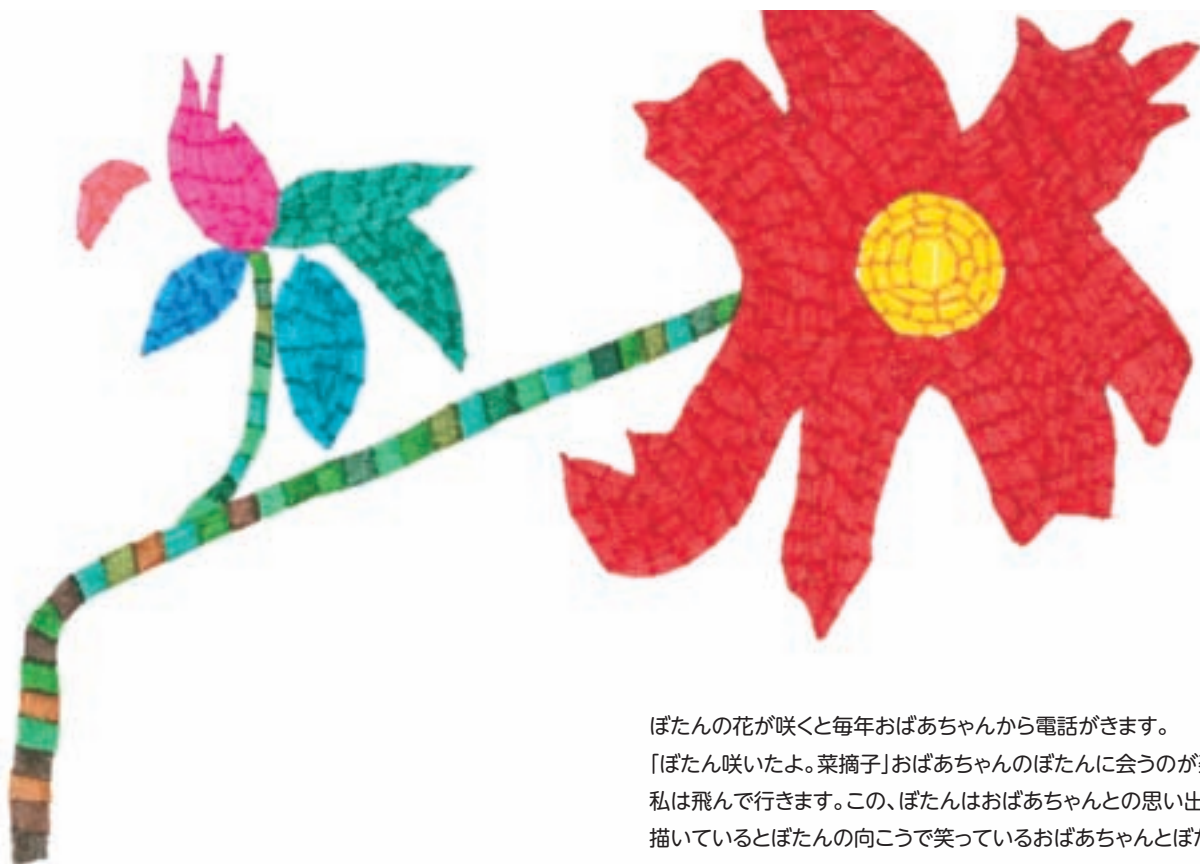
「

BELIEVE

2013
新年号
VOL.43

」

- 徹底した衛生管理のもとに作られる
安心・安全な食事
- シリーズ 情熱の白衣・看護師レポート



ぼたんの花が咲くと毎年おばあちゃんから電話がきます。
「ぼたん咲いたよ。菜摘子」おばあちゃんのぼたんに会うのが楽しみで
私は飛んで行きます。この、ぼたんはおばあちゃんとの思い出です。
描いているとぼたんの向こうで笑っているおばあちゃんとおぼたんの香りを思い出します。
とっても、とっても、きれいです。

ぼたん 岩崎 菜摘子 ・制作年/2001 ・素材/ペン ・148×100mm

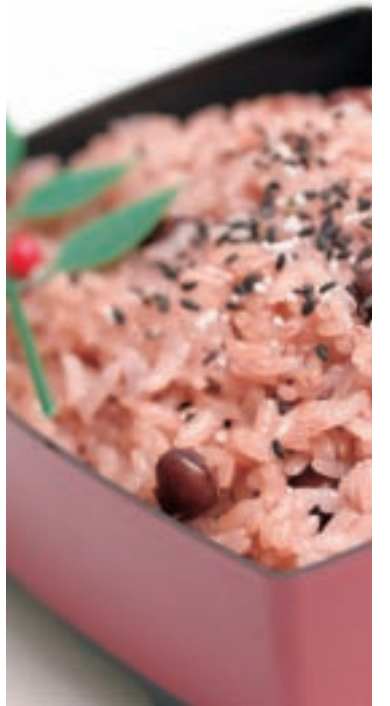
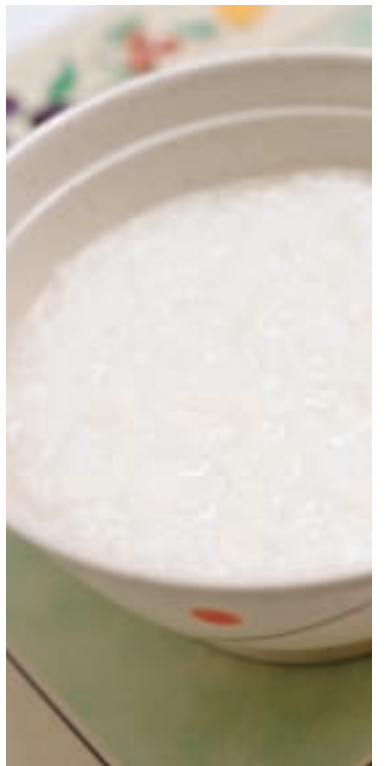
彼女にとって絵を描くことは、心の循環をしてくれる欠かせないこと。
「ぼたん」について、制作の想いをことばにしたためています。
(大阪赤十字病院は作品掲載を通じてバリアフリーを推進しています)

大阪赤十字病院の基本理念

わたくしたちは人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さまの権利

1. だれもが、一人の人間として、人権がまもられる権利を尊重します
2. 良質かつ適切な医療が、公平に受けられる権利を尊重します
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利を尊重します
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利を尊重します
5. プライバシーがまもられる権利を尊重します



徹底した衛生管理のもとに作られる

「安心・安全な食事」

栄養管理課

「病院」というと、まず思い浮かべるのは、「医師」「看護師」ではないでしょうか？しかし、病院の中では、直接患者さまと触れ合うことの少ないさまざまなお仕事があります。今号では、入院中の患者さまへ食事を提供している栄養管理課の取り組みの舞台裏をご紹介します。

1 患者さまに喜んで食べていただけるよう、衛生的でかつ安全な食事を提供します。

患者さまに提供する食事は、「安心・安全」というのが絶対条件です。栄養管理課におけるその取り組みは、メニュー作成から食材選び、調理法、スタッフの意識改革に至るまで、徹底した衛生管理を行っています。また、患者さまに喜んで食べていただくことで、食事からも病状が改善され、1日も早く退院できることを目的としています。

●徹底した衛生管理

大量施設衛生管理マニュアルに基づいて衛生管理を徹底し、果物以外すべての食材に加熱処理を行っています。例えば、大根おろしやキャベツの千切りなども一度加熱(中心部が75℃で1分以上)、ロウウイルス汚染の恐れのある食品の場合は85℃で1分以上、提供しています。

配膳では、食事を提供するトレーを4色に分けています。そうすることで、ひと目で食事の種類が解り、より早く患者さまに正確にお出しすることができます。その他にもチェックシートを使い膳組を確認しています。安心・安全な食事であるために、さまざまに取り組みを行っています。

●スタッフの連携から生まれるメニュー

患者さまの病状に応じた栄養を、おいしくしっかりと摂取できるように、管理栄養士と調理師が協力し合い、献立作成から調理法、味付け、盛り付けなどの工夫を行っています。

●行事食

夏の天神祭のときには関西らしく鰻を取り入れるなど、四季折々の行事を献立に取り入れています。また、行事ごとにメッセージカードを添えています。

●退院後のケア

退院後もご自宅での食事の参考にさせていただけるように、家庭料理を意識した献立にしています。特に糖尿病の患者さまには正しい食事をとってもらえるよう、第1・3木曜日に3階リハビリ室で、家庭で作れる糖尿病料理教室を開催し、指導を行っています。



2 入院中の食事は治療の二環、多種多様に応じた食事を提供しています。

入院中の食事は治療の二環として患者さまの病状に応じ、治療食を提供しています。

●症状を考慮した個人対応

患者さまによっては、アレルギー、嗜好上のアレルギー、宗教上の理由、食形態、病状の変化、治療の副作用で食事が進まないなど、多種多様に食事への対応を望まれるケースが増えています。当院では、そういった患者さまの症状を考慮し、可能な限り調整を行い対応しています。

●食事の種類

当院では、1日に約700食、1日にして約2000食の食事を用意しています。食事の種類においては、常食や離乳食などの一般食、糖尿病食、肝臓食などの治療食など、全部で約30種類あります。刻んだりペースト状にするなど形態を変えているものやアレルギー食などの個人対応食を含めると、数えきれないほどの食事を調理しています。

一般食

常食(全がゆ食、学童食、幼児食、離乳食、やわらか食、五分がゆ食、三分がゆ食、流動食、検査食、カテ食など)

治療食

糖尿病食、糖尿病腎症食、腎炎食、透析食、心臓病食、肝臓食、肺炎病食、低残渣食 など

形態

ひとくち大食、キザミ食、ペースト食

選択食

対象/常食でアレルギーがない方
実施日/水・木・金曜の夕食。(朝食に関しては、ほとんどの食種でパン食と和食が選択できます。)
※年末、年始、祭日は除きます。

産後のママのからだに必要な栄養のとり方やレシピなどが掲載されています。



産科 祝い膳

お産のお祝いとして祝い膳を提供しています。配膳時には栄養管理課より、お祝い用の冊子も配られます。

一般食・常食 朝

和食とパン食のどちらか好きなほうを選べます。パン食はクロワッサンの他に、食パンやロールパンを曜日別にお出ししています。



飲み物は、病状に合わせて選べます。

フルーツ 牛乳



副菜/サラダ 主食/クロワッサン

主食/ごはん(200g) **パン食 500kcal**

和食

550kcal



フルーツ 副菜/みそ汁

副菜/サラダ

副菜/卵の花

治療食・糖尿病食 580kcal

副菜/さつまいものごま焼き

主食/ごはん(150g)



副菜/コールスローサラダ

主菜/豚肉と白菜のオイスター炒め

ハーフマヨネーズをあとかげで!

一般食・常食 昼 680kcal

副菜/大学いも

主食/ごはん(200g)



副菜/コールスローサラダ

主菜/豚肉と白菜のオイスター炒め

始めからマヨネーズを和えてます!

人気ナンバー1メニュー

副菜/豆腐のあんかけ

主食/いなり寿司



副菜/エビときゅうりの酢醤油

主菜/五目うどん

一般食・常食B 夕 520kcal

一般食・やわらか食 490kcal

主食/五分がゆ



副菜/豆腐のあんかけ

主菜/カレイのみそ漬け、やわらか大根、やわらかかまぼこ

一般食・やわらか食

しっかりと形がありながらも、口に取り込みやすく、やわらかくて食べやすい食事です。圧力鍋を使用したり、トロミ剤を使用したりして、飲み込みやすいように調理しています。



栄養管理課には、管理栄養士8名、調理師31名、仕入れ担当などの事務スタッフ2名、計41名が所属しています。チームワークの良さも「安心・安全な食事」につながっています。

大手前整肢学園のイベントに協力しています!



当院に併設されている大手前整肢学園には、たくさん子どもたちが入園しています。夏祭りの屋台の仕込みや運動会のお弁当作り、サンタの格好をしてクリスマスケーキをお届けするなど、イベントを大切にしています。

3時のおやつ

出産後のママのおやつには、「なかに亭のクッキー」をどうぞ。当院では、地域性を活かし、近場のお店から仕入れるなどの取り組みも行っています。

※なかに亭: 上本町にあるケーキ屋さん。

副菜/オクラの和え物 主食/ごはん(200g)



副菜/豆腐のねぎごまだれ

主菜/鮭のちゃんちゃん焼き

治療食・透析食

580kcal

主食/ごはん(200g)



副菜/コールスローサラダ

主菜/豚肉と白菜のオイスター炒め

治療食・透析食

透析食は魚や肉、大豆製品、卵といったタンパク質を抑えます。エネルギー不足を防ぐため、油や糖でエネルギーアップをはかっています。塩分制限により、薄味になってしまうため、薬味やごま油、オリーブ油などを使い、風味を生かして食べやすく工夫しています。

一般食・常食

水・木・金曜の夕食には、A、Bのどちらかを選んでいただけます。色とりどりの具だくさんうどんと相性のよいいなり寿司のセットが人気ナンバー1です。

一般食・常食A 夕 520kcal

主食/ごはん(200g)



副菜/エビときゅうりの酢醤油

主菜/みそ漬け焼き

一般食・五分がゆ食

歯ぐきでつぶせるやわらかさの食事で、消化のよいもの、刺激の少ない食品を使用しています。

一般食・五分がゆ食

370kcal



副菜/そうめん汁

主食/五分がゆ

副菜/ポテト和風あんかけ

主菜/蒸し魚のみそがけ

焼き肉

鶴橋と言えば、お肉。ご近所さんから仕入れてます。

産科祝い膳

大根とカイワレのサラダ

フルーツ



紅白まんじゅう

茶碗蒸し

吸い物

赤飯

鯛の姿焼き

食べ終わったら、記念にお重を持ち帰っていただけます!

日本の行事とお食事

栄養管理課 管理栄養士 山口翔平

前回、冬の行事食について掲載いたしました。今回は1月ということもあり、おせち料理についてお話ししたいと思います。

第4回 おせち料理

1月も中旬に入り、おせちがまだ残っている家庭もあると思います。このようにおせちというものは、お正月の保存食としても欠かせない存在です。おせちとは元々奈良時代に朝廷の節会(せちえい)で供される、節供(せちく)という供御(くご)／天皇・皇族などの飲食物(のひ)としてあり、それを日本の節句と呼ばれる1月7日(人日)、13日(上巳)、5月5日(端午)、7月7日(七夕)、9月9日(重陽)の日に元日に節供料理が食べられており、その名残から元日におせち料理を食べるようになったと言われています。また、おせちは中国から伝わったものでもあります。

「ほう、黒豆数の子、エビ、栗きんとんなどのおせち料理には、どのような意味が込められているのでしょうか。」

・黒豆／今年一年中『まめ』に働けるように。

・数の子／子だくさん、子孫繁栄。

・エビ／腰が曲がっているさまから、腰が曲がるほど長生きするやうに。

・栗きんとん／金団と書くことで繁盛、繁栄するやうに。

・れんこん／先を見通せるやうに。

・田作り／豊作を願う。

・紅白かまぼこ／紅白はおめでたい意味。

昔は白身魚が高価品であり、かまぼこは保存のきく食品であったことから、海のない地域でも高級な海の幸とされていた。

・紅白なます／お祝いの水引を表すもの。

・伊達巻／『伊達』には華やかという意味合いがあり、また巻き物には知識や文化の発展を願う。

これらの意味が込められた料理を、良いことが重なるようにと、重箱に詰めて重ねたものがおせち料理というわけです。

おせちがまだ残っている人、もうすでに食べてしまった人も年の初めにこれだけ縁起のいいものを食べている、と心なごを改めて感じながら、今年年を過してはいいかがでしょうか。



お薬

三二知識

お薬手帳を持っていますか？ 薬剤部 木下晴江

東日本大震災において「お薬手帳」が大変役に立ったことはご存知ですか？

「今回の震災で大活躍したのがお薬手帳だった。」「お薬手帳があつてよかった。」「被災された方が口をそろえておっしゃっていたのが印象的でした。」

災害時には医療機関そのものの機能を失ってしまうことがあります。津波などにより診療記録が流れてしまったケースも多くありました。そこで困ってしまったのが、血圧や糖尿病などの薬のように普段飲んでる薬がわからなくなってしまうことです。自分の薬を患者さま自身が覚えておく必要があります。ですが、今ご自身が何の薬を飲んでいるかご存知ですか？

「このようにときに便利なのが『お薬手帳』です。」「お薬手帳」はあなたに処方された薬の名前や飲み量、回数などの記録(薬歴)を残すためのものです。この記録があると、医師、歯科医師や薬剤師が、どのような薬をどのくらい



保険証と一緒に「お薬手帳」を持ち歩きましょう!

期間使っているのが判断できます。災害時には医薬品が不足することもありますが、同じ薬でなくても入手可能な代替薬を処方してもらえます。また災害時に「お薬手帳」があれば処方せんなしで薬を受け取ることができた地域もありました。「いつもと同じ薬だし...」「持ち歩くのが面倒だし...」とお考えの方も多いと思いますが、この機会にぜひ「お薬手帳」をお持ちいただき、継続的に記録を残してほしいと思います。災害時以外でも急に他の医療機関を受診する場合や、健康診断を受ける場合、複数の医療機関を受診する場合や、転居した場合なども必ず役に立ちます。

「他の病院で出された薬との飲み合わせは大丈夫か?」「以前に飲んだ薬で副作用が出たものはないか?」などの薬の服用履歴もわかります。『お薬手帳』を見せるだけで、あなたの薬のことがわかってもらえます。自分の健康は自分で守るためにも『お薬手帳』をご活用ください。

がんサポートチームからのお知らせ vol.17

安心できる在宅療養へのサポート

緩和ケア認定看護師 佐々木 圭子

当院は平成14年度から、「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けています。その役割は、治すための治療だけでなく、地域と連携し、がん患者さまの生活を支える医療を提供することでもあります。現在、医療政策の改革による在院日数の短縮に伴い、今までは入院中に行われていた検査や治療が外来へ移行されています。当院でも自宅での生活を送りながら、通院治療を継続される方が増加しています。このため、がんサポートチームは、療養の場が病院から自宅へ移行しても、必要なだけ患者さまとその家族の方々が安心して過ごせることができるように、自宅でもできる身体症状への対処方法、医療処置の方法を指導しています。

また、状況に応じて入院支援課と連携し、社会資源を活用した在宅療養環境の調整を行っています。しかしながら、治療に専念できる病院での療養環境とは異なり、自宅は生活する場であるため、治療以外にも生活する上で、なんらかしなくてはならない、優先したいさまざまな事情が退院してから深刻化したり、自宅に戻ってから気がつくような困りごとや心配ごと、に直面することがあります。しかも症状が変化し、入院中に受けた指導では対応が難しくなる場合もあるかと思えます。常に医療者が周囲にいる入院環境とは異なり、外来通院中は、どこで誰にどのような相談したらよいかわからなかったと言われる方がいます。そのような方を療養場所に関係なく支援するために、現在3名のがん分野の認定看護師が、院内のがんサポートチームの「員」として取り組んでいます。私たちは、病院と自宅、地域の間、地点である外来で、その間をつなぐ窓口となり、入院病棟と同様にできるだけ患者さまとご家族の方が希望される生活が可能になるための調整や支援方法をチームで検討し、提案するようになっています。

当院では、療養場所が移行しても切れ目なく、治療およびがん患者さまとご家族の生活を支えていくための体制を整えていますので、何か心配ごとがあれば、まずは気軽に看護師に声をかけてください。

がん看護相談室 TEL:06-6774-5192 FAX:06-6774-5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp 火・金曜 14:00~16:00(予約制) / 本館2階・8番窓口(随時)

大阪赤十字病院の国際活動 International relief operations

当院は、院内に国際医療救援部という国内外の災害・紛争に対応する専門部署を持つ特別な病院で、1967年のタイ巡回診療に医師3名、看護師2名を6カ月派遣して以来、日常的に職員を世界各地の途上国に派遣しています。国際支援活動は大きく分けて、緊急救援、復興支援、開発協力の3つがあります。

緊急救援

災害や紛争が発生した場合、ただちに現地へ派遣し、支援を行います。医療支援だけでなく、物資配給や仮設住居、水・衛生環境の整備など、緊急救援にもさまざまな種類があります。①は、2010年のハイチ大地震で医療チームを派遣したときのものです。活動期間は被害の大きさや被災国の国力によって変わりますが、通常1カ月から数カ月。ただしハイチ大地震の際には、元々国力が非常に脆弱であったことに加えて、首都が被災したために回復に時間がかかり、日赤の緊急支援は6カ月におよび、当院職員の派遣は計12名にのぼりました。その後、現在も当院から職員を派遣して復興支援活動を継続しています。



① 避難キャンプで巡回診療中の当院医師

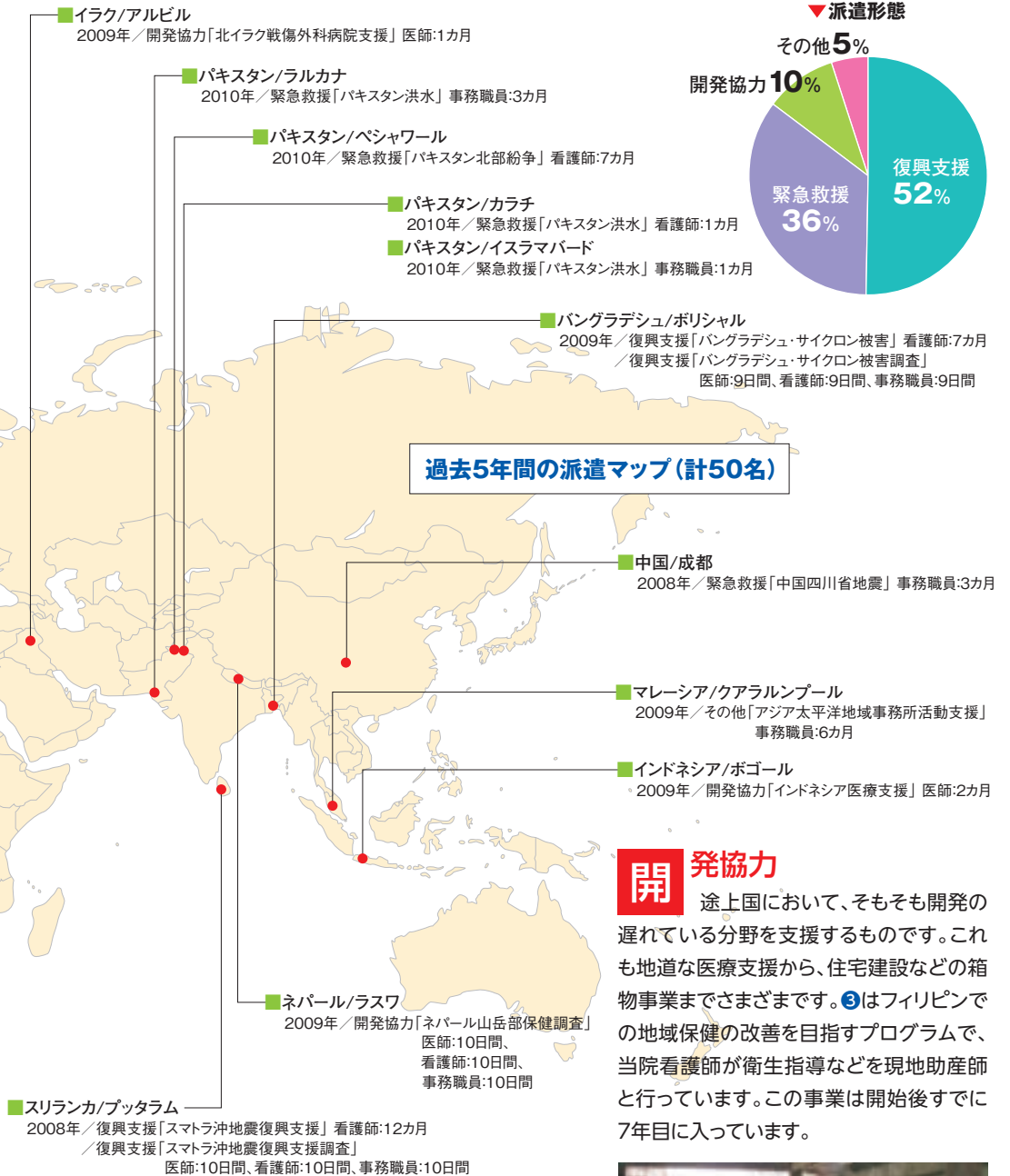
- ウガンダ/カロンゴ
2009年 / 復興支援「ウガンダ北部復興支援調査」
医師:10日間、事務職員:10日間
2010年 / 復興支援「ウガンダ北部病院支援」
医師:3カ月、医師:4カ月
2011年 / 復興支援「ウガンダ北部病院支援」
医師:1.5カ月、医師:1.5カ月
復興支援「ウガンダ北部母子保健/病院支援」 医師:9日間
2012年 / 復興支援「ウガンダ北部病院支援」 事務職員:10日間、
医師:1カ月、医師:3カ月、事務職員:10日間、
医師:2カ月、医師:9日間、事務職員:10日間
- ジンバブエ/カロイ
2008年 / 緊急救援「ジンバブエ・コレラ禍」 事務職員:1カ月
2009年 / 緊急救援「ジンバブエ・コレラ禍」 医師:1カ月、看護師:1カ月間



② 現地のインターンを指導しながら手術をする当院医師

復興支援

急性期が過ぎ、被災地(国)が、復興に向けて活動する時期に、手助けを行います。医療支援や、住宅・学校・水道などインフラの建設・衛生教育活動など、さまざまな支援の形態があります。②は、ウガンダ北部で20年以上続いた内戦の収束後の病院を支援している戦後復興事業で、当院が中心となって継続的に外科医を派遣し、手術や現地若手医師の育成にあたっています。復興支援は緊急救援よりも長く、年単位の支援になります。ウガンダの支援は6年計画で2016年まで続きます。



開発協力

途上国において、そもそも開発の遅れている分野を支援するものです。これも地道な医療支援から、住宅建設などの箱物事業までさまざまです。③はフィリピンでの地域保健の改善を目指すプログラムで、当院看護師が衛生指導などを現地助産師と行っています。この事業は開始後すでに7年目に入っています。



③ 学校を借りて現地の人々に衛生教育を行う当院看護師

当院では、毎年10名前後の職員を海外に派遣しており、復興支援や開発協力になると、一人当たり半年から1年の派遣期間となり、当院職員が海外に一人もいない時期はありません。

テレビや新聞で取り上げられる災害時の緊急救援だけを行うのであれば、病院の宣伝にもなり、職員不在の期間も短いので、病院にとっても負担は少ないのですが、国際活動は、人々の記憶が薄くなり、メディアが取り上げなくなった復興期、あるいは平時における地道な活動へとつながることで、支援の効果が何倍にもなります。これらの報道されない国際活動は、全国の赤十字病院が出し合った資金、そしてなによりも多くの国民の皆さまからのご寄付やご声援が支えになっております。

大阪赤十字病院では、今後も堅実に国内外の医療支援活動を続けていきたいと考えております。また、派遣から帰国した職員の得難い経験が、当院での業務に還元され、活かされると確信しております。

今後とも皆さまのご支援をよろしくお願いたします。



Event 「平成24年度 院内災害訓練」報告

当院の災害訓練も今年で8年目となりました。今年も10月1日(月)に各市消防、大阪府警、陸上自衛隊など、府下の多数の防災機関とともに、大規模な実践訓練を行いました。

当院の訓練は毎年、13時に訓練を開始し、訓練



府下消防隊も多数参加



手術場も停電して訓練



救急病棟にて

時間中は本当に被災した場合と同じ状態で行うため、通常の病院業務や院内の食堂などのすべての業務を停止して行います。職員は事前に何も知らされておらず、発災のアナウンスと同時に、各自が実際に災害が発生したときと同じように動きます。

まず、外来・入院患者さまと職員の安否確認、次いで機器や設備の確認、そして、外からの被災者の受け入れ準備に移ります。この間、院内の模擬被災地では、市消防や大阪府警などが模擬被災者の救出を行い、病院へ搬送します。病院はそれを受け入れ、本番同様に、診察、

検査、処置や手術を行います。全職員が参加し、できるだけ実際に近づけることで、毎年多くの新しい課題が見つかり、それに対応するというを繰り返しています。

患者さまには例年ご迷惑をおかけいたしますが、これも地域防災対策の一環であり、今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。防災は病院だけでなく、一般市民の方々と協力しなければ大災害に立ち向かうことはできません。このことから当院では毎年8月第一日曜日に、親子で学んでいただく体験型の防災セミナー「災害」を開催しております。次号『びり〜ぶ春号』で詳細をご案内いたしますので、こちらも奮ってご参加ください。

編集後記

あけましておめでとうございます。

昨年はどんな一年を過ごされましたか？人それぞれ、いい一年、残念だった一年とさまざまであったと思いますが、年が変わると『今年はどうな一年にしよう』と、区切りをつけられる年の始まりがあるのはありがたいことでもあります。昨年のつらかった出来事は少し置いておき、一年の始まりが新たな希望のスタートになればと思います。(T.T)

■平成22年12月1日より 当院は敷地内全面禁煙です

当院は平成22年12月1日より、敷地内全面禁煙を実施します。ご理解とご協力をお願いします。



Event 「クリスマスコンサート」が開催されました

去る12月9日(日)午後2時から、1階正面玄関ホールでクリスマスコンサートが開催されました。

コンサートでは、大阪赤十字看護専門学校3年生19名によるコーラスやハンドベル演奏、そして長野宏昭呼吸器内科部医師の呼びかけに結集した、竹田治彦消化器内科部医師そして9階B病棟喜多綾香看護師を含む21名の「にっせき合奏団」によるオーケストラ演奏が披露されました。

当日は300人を超える観客が集まり、演奏ごとに大きな拍手が会場に響きました。終了後のアンケートでは、出演者の熱のこもったステージに感動したという声を、数多くいただきました。

今回は、3月17日(日)に「スプリングコンサート」を開催予定です。お楽しみに!



Event 毎年恒例の「キャロリング」が行われました

去る12月20日(木)の夕刻、キャロリングが行われました。

この行事は毎年クリスマス前に行っているもので、キャンドルを持った当院の看護学生と看護師の聖歌隊が「ご入院中の患者さまにやすらぎとなぐさめを」との気持ちを込め、聖歌を歌いながら病棟を回ります。キャンドルの灯火のなか、願いを込めた歌声が病棟内にあたたかく響きわたりました。



News 「海外たすけあい」に、ご協力いただきありがとうございました

日本赤十字社はNHKと共催で「海外たすけあい」義援金を募集し、当院でも12月1日～25日まで院内各所へ募金箱を設置しました。皆さまから総額28,611円もの心温まるご寄付をいただきました。これらの義援金は紛争あるいは自然災害の被害者、飢餓や疾病に苦しむ人々への支援など、さまざまな事業にあてられます。たくさんのご協力ありがとうございました。

外来診療担当表

平成25年1月10日現在

午前診療 午後診療

科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
消化器内科		津村	中島	邊見	西島	齋藤	全て予約制
		松田史	金坂	圓尾	喜多	幡丸	
		関川	岡部	大崎往	米門	圓尾	
		大原		坂本	竹田		
		津村	中島	邊見	井口	齋藤	
		松田史	金坂	丸井	奥	幡丸	
		関川	岡部	福原	米門	佐田	
消化器内科(肝臓外来)		喜多	大崎往	木村	那須	西川	午後は予約制
糖尿病・内分泌内科		米光	松尾	金井	武呂	南部	午後は予約制
		南部	金井	武呂	米光	米光	
血液内科 (移植外来)		藤井	水谷	中村	金子	平田	全て予約制
		金子	平田	通堂	水谷	通堂	
		辰巳	水谷	松本	金子	平田	
		豊岡	福田慎	通堂	豊岡	岩井	
リウマチ・膠原病内科		村上	村上(予約)	村上(予約)	日和	伊藤(予約)	全て予約制
		村上	村上	村上			
腎臓内科		菅原	川西	大崎啓	小川	越川	全て予約制
		越川	小川	菅原	川西	菅原	
		菅原	川西	大崎啓	小川	越川	
		越川	小川	菅原	川西	大崎啓	
循環器内科		担当医	田中	伊藤	長央	福地	全て予約制
		林	伊藤	稲田司		田中	
		林	田中	伊藤	長央	福地	
不整脈内科		内山	牧田		牧田		全て予約制
		内山	牧田		内山		
心臓血管外科		中山(予約)	中山(初診)		中山(初診)		全て予約制
小児科		藤野	竹川	葭井	坂本	金岡	血液外来は予約・紹介のみ
		奥野	瓦林	田中碧	正岡	新居	
		安西	植村			林	
		藤野・朴	血液外来	血液外来	血液外来	血液外来	
小児外科		松川		松川			血液外来は予約・紹介のみ
		福田	片岡	細木	河野	中島研	
		花房	金谷	中島康	有本	岡田	
		山浦	有本	鈴木	川田	金澤(初診)	
		露木	山口	奥村	川田	川田	
		福田	片岡	細木	萩原	中島研	
		花房	伊藤	中島康	有本	馬場園	
整形外科		渡邊	鈴木	坂本	大浦	富原	専門外来は予約のみ
		富	鈴木	堤	坂口	正本	
		富	富	福田	堤	富	
リハビリテーション科		好井	好井	好井	好井	富原	全て予約制
脳神経外科		担当医	山下	担当医	山下	朝日	予約・紹介のみ
		担当医	朝日	担当医	西村	米田	
		担当医	土井	担当医	吉岡	担当医	

科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
神経内科		金田	峠	中村	鈴木	加藤	全て初診のみ
		鈴木	加藤	金田	加藤	鈴木	全て再診のみ
呼吸器内科		(吉村)			西坂	若山	※禁煙外来は午後のみ
		網谷	西坂	花岡	中村	若山	
		花岡	中川	若山	長野	中川	
		中村	長野		網谷(予約)	中川	
呼吸器外科			中出	渡辺		川邊	※手術相談外来は予約制
			田中	田中		山崎	
産婦人科		西川	古田	河原	吉岡	泉	午後は再診のみ ※月～金曜日 助産師外来あり
		泉	松尾	川島	西川	三瀬	
泌尿器科		光森	前野	西村	岩村	岩村	全て予約制
		岩村	住吉	光森	前野	光森	全て予約制
		河野	光森	前野	住吉	河野	
		岩村	住吉	光森	前野	住吉	
眼科		田口	中川	石井	中川	秋元	〈火・木〉 再診は予約のみ
		秋元	担当医	秋元	担当医	田口	
		廣井		田口	廣井	廣井	
		岡本		廣井	岡本	岡本	
耳鼻咽喉科 頭頸部外科		古田	平塚	小山	古田		全て予約制
		田中	小山	山原	平塚	山原	
皮膚科		立花	立花	加畑	立花	加畑	全て予約制
		赤木	加畑	赤木	赤木	太田	
		鬼頭	太田	中島	鬼頭	鬼頭	
形成外科		重吉	岩井	重吉	内藤	内藤	
精神神経科		吉田	早川	吉田	早川	吉田	
		久保	清水	清水	植野	早川	
		清野	担当医	土戸	担当医	清野	
放射線診断科		藤堂	塩崎	前倉	小山	岡田	診断 検査(透視) 検査(CT) 検査(MRI) 検査(RI) 検査(血管造影) 検査(CT) 検査(MRI) 検査(RI)
		前倉	(外科)	塩崎	(外科)	福富	
		岡田・小嶋	藤堂・小山	小山・岡田	小嶋・塩崎	前倉・小山	
		小山	前倉	福富	岡田	大谷	
		塩崎	岡田	(循環器科)	大谷	藤堂	
		小山・前倉	福富・塩崎	塩崎・前倉	岡田・前倉	大谷・塩崎	
		岡田	小山	岡田	塩崎	前倉	
放射線治療科		石垣	中村	担当医	中村	石垣	
		中村	石垣	担当医	石垣	中村	
		中村	石垣	担当医	石垣	中村	
歯 口腔外科		井上	杉立	本橋	担当医	担当医	全て初診(紹介)のみ
		杉立	本橋	杉立		杉立	
		本橋	井上	井上		井上	全て再診(予約制)

- 受付時間(月～金) (診療開始は午前8:45からです)
 - 初診の方/月曜日～金曜日 8:30～11:30 ●再診の方/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休診日 ●土曜日・日曜日・祝日・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券 ●診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 (病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護士にご相談ください)
 - 平日/14:00～19:00 休診日/10:00～12:00、14:00～19:00 ●小児病棟(平日・休日とも)/14:00～19:00
- 保険証等 ●保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

電子カルテシステム導入のお知らせ

平成25年1月2日(水)より、診療で使用しているオーダーリングシステムを新しい電子カルテシステムに移行しました。当面は外来診療などで待ち時間が長くなるのが予想されます。患者さまには、診療・検査などに時間がかかり、ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

お問い合わせ/TEL:06-6774-5111(代表)
 (大阪赤十字病院) <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/> (赤十字全般) <http://www.jrc.or.jp/>